

<p>■After</p> <p>建築名称 下段:英語名</p>	<p>甚吉邸・ICI STUDIO W-ANNEX</p>			
<p>建築用途</p>	<p>大分類 集会、展示</p>	<p>小分類</p>		
<p>改修設計者</p>	<p>前田建設工業、ツバメアーキテクト</p>			<p><a href="#">URL</a></p>
<p>所在地</p>	<p>茨城県取手市寺田5270</p>			<p><a href="#">Google Map</a></p>
<p>改修年</p>	<p>2022年</p>			<p>After 甚吉邸(左)、W-ANNEX(右)</p>
<p>建築規模</p>	<p>W-ANNEX :木造+鉄骨造+鉄筋コンクリート造、2階建。 甚吉邸:木造+鉄筋コンクリート造+鉄骨造</p>			<p>撮影者 撮影:中村絵 提供者 提供:ツバメアーキテクト</p>
<p>掲載書誌</p>	<p>新建築:2022年5月号</p>		<p>概要 after</p> <p>解体の危機にあった渡邊甚吉邸を前田建設のICI総合センター移築。保存するだけでなく、活用を図るため隣接地にW-ANNEXを増築</p>	
<p>賞・選定</p>				
<p>資料・その他</p>	<p>URL</p>			
<p>■Before</p> <p>建築名称</p>	<p>渡辺甚吉邸</p>			<p>概要 before</p> <p>実業家 渡邊甚吉の私邸。設計は山本拙郎と遠藤健三、細部装飾は今和次郎による、ロココ様式、チューダー様式など多様な様式を取り入れた昭和初期の日本住宅建築の傑作。</p>
<p>建築用途</p>	<p>大分類 住居</p>	<p>小分類 住宅</p>		
<p>■写真</p> <p>Before 移築前の渡邊甚吉邸</p>	<p>After W-ANNEXの内観。通常はスクリーンカーテンが吊られている</p>		<p>After 甚吉邸内観。応接室</p>	
				
<p>撮影者 撮影:傍島利浩 2018年 提供者 提供:前田建設工業株式会社</p>	<p>撮影者 撮影:中村絵 提供者 提供:ツバメアーキテクト</p>		<p>撮影者 撮影:傍島利浩 2022年 提供者 提供:前田建設工業株式会社</p>	
<p>■リノベーション内容</p>	<p>キーワード</p> <p>文化・産業遺産、増築、対比、移築</p>	<p>内容</p> <p>&lt;ツバメアーキテクトwebsiteより抜粋&gt;・・・幸いにも移築されることになった甚吉邸、これを博物館のように保存するだけでなく、今日を生きる建築物として活用のあり方を示す必要があった。そのために、別館を隣接させ活用を促進する。ツバメアーキテクトはこの別館の設計に参加することになった。</p> <p>設計を進めるにあたっては、2棟を連動する活用方法や運営組織のあり方など、前田建設工業のメンバーとワークショップを行い、議論することから始めた。その中で見えてきた建築の姿は、甚吉邸をサポートする施設というよりはむしろ、甚吉邸と補完しあって体を成す、肩を並べて建つ相棒のような建築であった。甚吉邸にないものを兼ね備え、だけれどもどことなく馴染む、対比と調和をはらんだ建築である。小さな室の集合でつくれ、装飾豊かで華やかな甚吉邸に対して、大きながらんどうで、透明性高く無垢なしつらえとし、タフに使える空間を補って活用を促進する。甚吉邸の背後、雑木林の中に極力木を残すようにして配置し、木々の中に馴染ませつつも存在感のあるヴォリュームで木造トラスを浮かばせる構成とした。木造トラスからは、バトンやスクリーン、カーテンが吊られ、そこでの活動をサポートする。ランドスケープと連続性を生むカーブを描いた鉄筋コンクリートのコアと、鉄骨のポスト柱がこれを支え、内外が連続した開放的な空間を実現している。方位に応じて、日射遮蔽や風景の取り込みなどに配慮した結果、透明度の異なる外皮が木の架構を浮かび上らせるファサードが生まれた。・・・</p>		
<p>■作成者 氏名/所属</p>	<p>桐原武志/Free JIA再生部会</p>		<p>作成協力 前田建設工業株式会社・ツバメアーキテクト</p>	